

| | |
|----------|--|
| 実施校 | 柏市立大津ヶ丘中学校 |
| 指導者 | 鶴見 綾子 |
| 学年 / 教科 | 2年 / 家庭科 |
| 題材(単元)名 | よりよい消費生活のために 「契約と消費生活のトラブル」 |
| 育みたい生徒の姿 | 1 だまされない消費者 ② 自立した賢い消費者 3 持続可能な社会に貢献できる消費者 |

1. 題材(単元)の目標

消費生活におけるトラブルについて理解し、その予防方法や対処方法について適切な判断・行動を身に付ける。

2. 指導計画

| 時 | 指導内容 |
|------|---------------------------------------|
| 1 | 消費生活トラブルについて具体的内容を理解させる。 |
| 2 | 消費者の心情や悪徳業者の心情を理解しながらロールプレイングの内容を考える。 |
| 3 本時 | ロールプレイング発表 |
| 4 | 消費生活トラブルのまとめ |

3. 本時

(1) 目標

ロールプレイングを通して、トラブルに遭わないために消費者が付けなければいけない力は何かを考える。またトラブルに遭ってしまった時の解決策を理解する。

(2) 展開 (3/4)

| 時配 | 指導内容 ● 学習活動 ○ | 教師の支援 ■ 評価 ◇ | 備考 |
|---|--|---|----|
| 見出す 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ● 本時の内容の確認 ● 消費生活トラブルの内容確認 | | |
| <p>ロールプレイングを通し，消費者がつけなければいけない力は何だろう？またトラブルに遭ってしまった時の解決策は何が適切だろうか？</p> | | | |
| 自分で取り組む 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ● 消費者の心理や心情に注目しながらトラブルに遭ってしまう原因を考え，トラブルに遭ってしまった時はどうすべきかを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 消費者の心情を考えられない生徒には声をかけながら支援する。 ◇ トラブルにあってしまう消費者の心理を理解できる。 ◇ トラブルに遭ってしまった時の適切な対応策について考える。 | |
| 広げ深める 25分 | <ul style="list-style-type: none"> ● 消費者と悪徳業者に分かれ，ロールプレイングを行う。(発表) | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 消費者や悪徳業者の心情を理解しながら，ロールプレイングに取り組み，適切な対応策について考えられる。 ■ 発表者は聞いている側に伝わるようになりきって演じさせる。また声の大きさなども聞こえる声で発表させる。 | |

| | | | |
|---------------------------------------|---|-----------------------------|--|
| ま と め あ げ る 10 分 | ●それぞれの発表をみて、消費者の心理やトラブルに遭ってしまった時の対応策について理解する。 | ◇トラブルに遭ってしまった時の対応策について理解する。 | |
|---------------------------------------|---|-----------------------------|--|

4. 使用教材・資料

- ・教科書
- ・ワークシート
- ・ネット動画「信州だまされない宣言」

<https://www.nagano-shohi.net/keihatsu/movie/>



5. 成果と課題

(1) 成果

発表の中では「うまい話には裏がある」や「何か契約をする際には自分たちで情報を集めたり、家族や友人に相談することが大切」などの意見があがった。

また消費生活センターなどの活用でトラブルを解決する方法があることも理解した。

(2) 課題

- ・実際にトラブルに遭っていないことから危機感があまり持てない人もいた。
- ・劇となると面白さを求めてしまう人もいて深く考えられなかった人も一部いた。

| | |
|-----------|--|
| 実施校 | 柏市立富勢中学校 |
| 指導者 | 鴫巢 寿 |
| 学年 / 教科 | 3年 / 社会科 (地理) |
| 題材 (単元) 名 | 北海道地方の農業 |
| 育みたい生徒の姿 | 1 だまされない消費者 ② 自立した賢い消費者 3 持続可能な社会に貢献できる消費者 |

1. 題材 (単元) の目標

○ 国産品と外国産との違いを、北海道地方の農業の学習を通して学ぶ。

○ 産地によって農作物にどのような特徴があるかを知ること、産地への意識付けをする。

2. 指導計画

| 時 | 指導内容 |
|---|----------|
| 1 | 北海道地方の農業 |

3. 本時

(1) 目標



○ 国産品と外国産との違いを、北海道地方の農業の学習を通して学ぶ。

○ 産地によって農作物にどのような特徴があるかを知ること、産地への意識付けをする。

(2) 展開

| 時配 | 指導内容 ● 学習活動 ○ | 教師の支援 ■ 評価 ◇ | 備考 |
|-----------------------------|---|---|----|
| 見出す 5分 | <p>● 北海道の有名な産物を紹介</p> <p>○ 出された産物名を答える。</p> <p>● 本時は特に農業について見ていくことを伝える。</p> | <p>■ 導入なので、パワーポイントで簡単な写真を出す。 (蟹、ホタテ、鮭、小麦、ジャガイモ、あずき、牛乳)</p> | |
| <p>北海道の農業の特色や課題について考えよう</p> | | | |
| 自分で取り組む 20分 | <p>● ワークシート配布</p> <p>● 発問：『北海道の農業の特色について調べてみよう』</p> <p>① 稲作に適していなかった北海道で、現在稲作が盛んになったのはなぜか</p> <p>② 畑作の特色</p> <p>③ 酪農の特色</p> <p>○ まとめた内容を発表する。</p> <p>① 品種改良、客土、排水施設の建設など</p> <p>② 十勝平野は日本最大級の畑作地帯、ローム層、気温が低い地域に適した物を栽培、輪作など</p> | <p>■ 教科書に書かれている内容を調べてまとめる</p> <p>机間指導をして、見つけられない生徒には声をかけて支援をする。</p> <p>■ 思考を補助するため、関連する画像をパワーポイントで表示する。</p> <p>■ 発表された内容を板書書けてなかった生徒のために、写す時間は確保する。</p> | |

| | | | |
|---|---|---|----------------------------|
| | <p>③ 根釧台地・十勝平野で盛ん、バターやチーズの生産など</p> | | |
| <p>広 げ 深 め る 15 分</p> | <p>● 発問：『北海道の畑作農家や酪農家が抱えている問題点を2つ、教科書から探してみよう』</p> <p>① 大規模な生産のための機械や設備で経済的な負担が大きい</p> <p>② 外国産の農産物が輸入され、安い輸入品に押されて経営が厳しい</p> | <p>■ 板書する</p> | |
| <p>以下、消費者教育の展開</p> | | | |
| | <p>● ②について特に取り上げる。</p> | <p>■ 買い物に行ったときに値段表示を見たことがあるか聞く。</p> <p>パワーポイントを使って、農産物の価格と産地が見える画像を出す。</p> | |
| <p>発問：国産品は外国産と比較してなぜ価格が高いのだろう</p> | | | |
| | <p>○ 自分の意見を書く。</p> <p>○ 3人組小グループで話し合いをする。</p> | <p>■ 机間指導で各グループの様子を見る。必要に応じて支援する。</p> <p>◇ 積極的に話し合いに参加しているか。</p> <p>◇ 『自分は○○だと思う。なぜなら～だから。』という形</p> | <p>グループは事前で作っておく。(座席順)</p> |

| | | | |
|------------------|--|---|--|
| | <p>○話し合った結果を発表し、全体でシェアする。</p> <p>生徒の意見：国土面積が狭いため、大量生産して安く大量に売ることによって利益を上げることが難しいので、品質にこだわって生産しているから</p> <p>●発問：「食の安全性」という観点で見た場合、国産、外国産のどちらが望ましいと考えるか</p> | <p>で自分の意見を話し、相手に伝わりやすい話し方ができているか</p> <p>■板書する</p> <p>■個人の考え、家庭の事情などの考慮し、生徒自身の意見を尊重する。あくまでも、授業の内容は「将来考える材料」となるように心がけるとともに、「外国産は危険」という印象を与えないようにする。</p> | |
| <p>まとめあげる10分</p> | <p>○北海道の農業の特色と課題について、自分の考えたことをまとめる。</p> <p>○発表して全体でシェアする。</p> | <p>■机間指導で様子を見る。必要に応じて支援する。</p> <p>◇課題についてのまとめ部分で、消費者教育の視点を持った記述をしているか</p> | |

4. 使用教材・資料

- ・教科書
- ・自作パワーポイント
- ・ワークシート

5. 成果と課題

(1) 成果

消費者教育を日常の授業の中に取り入れることを意識して行った。消費者教育の観点の内容以外のことも同時間にやっているため、どの程度生徒の印象に残せるかがポイントだった。

結果は、話し合いの時間をとっているため、ほぼ全員の生徒がまとめの内容に「国産」「外国産」の製品に対する考えを書いていた。無理なく日常の授業の中に消費者教育の視点を入れることができた。

(2) 課題

今回は、日常の授業の中に消費者教育の視点を取り入れることを意識して授業を展開した。授業の前半に消費者教育の展開以外の部分もあるため、その部分がおろそかにならないようにしなければならない。

また、評価も(2)の展開では消費者教育の観点の評価しか記載していないが、実際の授業では前半部分の理解がしっかりできているかの評価も入る。この時間の評価に関しては少し時間がかかってしまう可能性があり、「誰もが簡単に、気軽にできる消費者教育」という視点からは改善の余地があるのではないかと考える。

| | |
|-----------|---|
| 実施校 | 柏市立西原中学校 |
| 指導者 | 大菅 竜平 |
| 学年 / 教科 | 3年 / 社会科 (公民) |
| 題材 (単元) 名 | 消費生活と市場経済 |
| 育みたい生徒の姿 | ①だまされない消費者 ②自立した賢い消費者 ③持続可能な社会に貢献できる消費者 |

1. 題材 (単元) の目標

- (1) 消費者の権利について理解し, 実生活の事例を想起して理解する (知識・技能)
- (2) 消費者トラブルや契約における課題を解決しようと多面的・多角的に考察し, 構想し, 表現する。(思考・判断・表現)
- (3) 消費と契約への関心を持ち, 自身の将来像をイメージして意欲的に考え, 主体的に社会に関わろうとする。(主体的に学習に取り組む態度)

2. 指導計画

| 時 | 指導内容 |
|----|----------------|
| 1 | 私たちの消費生活 |
| 2 | 消費者の権利を守るために |
| 3 | 生産活動と企業 |
| 4 | 株式会社の仕組み |
| 5 | 労働の意義と労働者の権利 |
| 6 | 市場経済と価格の決まり方 |
| 7 | 貨幣の役割と金融 |
| 8 | 景気と金融政策 |
| 9 | グローバル経済と金融 |
| 10 | 消費生活と市場経済 (本時) |

3. 本時

(1) 目標

- ① 消費と契約について，実生活と照らし合わせながら多面的・多角的に考察している。(思考・判断・表現)
- ② 社会の動向を踏まえて，消費と契約の是非について検討し，課題解決を目指す。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開(10/10)

| 時配 | 指導内容 ● 学習活動 ○ | 教師の支援 ■ 評価 ◇ | 備考 |
|------------|--|--|----|
| 見出す5分 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 将来手に入れたいモノを考えて答える。(ブランド品，マイホーム，車など)。 ○ モノを買う(契約)際に重要視することは何か考えて答える。 (価格，品質，ブランド) ○ 挙げたモノを対象に，契約と消費の際に気を付けるべきことを考える。その対処法について考察する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 多彩なジャンルが出てくるように教師からも提示する。 | |
| 自分で取り組む15分 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>より良い消費生活のために，どのような視点を持って契約と消費をしていくべきなのだろうか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4人1組の班を作り，それぞれの欲しいモノを対象に契約と消費において起こりうるトラブルと，その対処法を調べ，話し合い，共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ Chromebookを使用する。 ◇ 消費と契約について，実生活と照らし合わせながら多面的・多角的に考察している。(思考・判断・表現) | |

| | | | |
|---|--|---|--|
| <p>広げ 深め る 20 分</p> | <p>○ 各班で1つ選び， Jamboardにまとめて紹介 し共有する。 ○ 各スライドに載っている 重要な語句を確認する。</p> | <p>■ 検索サイトを使用して， クリーニング・オフや各 種保険などの仕組みに についても調べ，より現 実的な対処法や注意点 について共有できるよ うにする。</p> | |
| <p>ま と め あ げ る 10 分</p> | <p>○ 学習課題に対する まとめを行う。</p> | <p>◇ 社会の動向を踏まえ て，消費と契約の是非 について検討し，課題 解決を目指す。（主体的 に学習に取り組む態度）</p> | |

4. 使用教材・資料

- ・ Chromebook（検索サイト，Jamboard）
- ・ 授業プリント

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・ 生徒自身の将来観を提示させ，社会の契約と消費におけるシステムを理解させた上で，将来観を現実的な視点で見られたという実感を得た生徒が多かった。
- ・ 単元当初，契約（ローン，生命・医療保険など）におけるイメージが生徒にとってはネガティブなものに捉えられていたが，単元の学習を通じて生活にとっては必要かつ大切なものであるという感想を多く得ることができた。

(2) 課題

- ・ 契約に関する内容に多くの時間を割き，消費に関して生徒に考えさせる学習課題がなかった。次の機会には消費についても考えた単元計画を立案し，実践したい。

| | |
|-----------|--|
| 実施校 | 柏市立柏第五中学校 |
| 指導者 | 近藤 誠 |
| 学年 / 教科 | 3年 / 社会科 (公民) |
| 題材 (単元) 名 | 公民分野 第4章3節「価格の働き」 |
| 育みたい生徒の姿 | 1 だまされない消費者 ② 自立した賢い消費者 3 持続可能な社会に貢献できる消費者 |

1. 題材 (単元) の目標

- 市場経済の基本的な考え方について理解させる。
 その際、市場における価格の決めり方や資源の配分について理解させる。
- 市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら、主体的に社会に関わろうとさせる。

2. 指導計画

| 時 | 指導内容 |
|--------|---------------|
| 1 | 市場経済の仕組み |
| 2 (本時) | 価格の働き |
| 3 | 貨幣の役割と金融 |
| 4 | わたしたちの生活と金融機関 |
| 5 | 景気と金融政策 |

3. 本時

(1) 目標

- 市場経済における価格の働きについて理解する。
- 市場経済において価格が果たしている役割を、効率の観点から適切に表現する。

(2) 展開

| 時配 | 指導内容 ● 学習活動 ○ | 教師の支援 ■ 評価 ◇ | 備考 |
|--------------------|--|--|----|
| 見出す 10分 | ●3種類の水の価格を提示する ○価格の違いの理由を考える。 | ◇価格の違いの理由について、複数の観点から考えている(思判表) | |
| なぜ、同じ商品でも価格が変わるのか？ | | | |
| 自分で取り組む 20分 | ○きゅうりの入荷量と価格の動きのグラフから、入荷量と価格の関連性を読み取る。 ●需給曲線を用いて、価格の変動を視覚的に捉えさせる。 | ◇グラフから、入荷量が増加すると価格が下落し、入荷量が減少すると価格が上昇する関係性を読み取ることができる。 | |
| 広げ深める 10分 | ○カードゲームのカードで高額で転売されるものがあるのはなぜか、説明してみよう。 | ◇価格の変動の理由を、需要と供給の関係に基づいて説明することができる。(思判表) | |
| まとめあげる 10分 | ○まとめ 自分が消費者として買い物をするとき、どのようなことに気を付けたいか。 | ◇自分自身の生活と結び付けて、身近な例を用いて表現することができる。(思判表) | |

4. 使用教材・資料

- ・教科書
- ・資料集
- ・ホワイトボードスクリーン
- ・パワーポイント

5. 成果と課題

(1) 成果

今年度はまだ実施していない範囲であるが、これまでの実践の中で、授業のアンケートから、「身近な例を用いて考えることで、今まで深く考えることのなかった「価格」というものについて、消費者の視点を経済の観点から考えるようになった」という意見が複数見られた。

授業を通して、消費者としての立場を考える意識高揚につながったと思われる。

(2) 課題

消費者教育という視点から考えると、単発での授業展開でしか実践を行うことができておらず、継続した指導につなげることができていないことが課題として挙げられる。

| | |
|----------|--|
| 実施校 | 柏市立柏第二中学校 |
| 指導者 | 大軒 穰 |
| 学年 / 教科 | 3年 / 技術 |
| 題材(単元)名 | 情報の技術 (IoT技術の活用) D(4)アイ |
| 育みたい生徒の姿 | ① だまされない消費者 ② 自立した賢い消費者 ③ 持続可能な社会に貢献できる消費者 |

1. 題材(単元)の目標

Society5.0におけるIoT技術の仕組みと実社会での活用例について学び，人中心のより良い社会や持続可能な社会と結び付けてその活用を考える力を身に付ける。

2. 指導計画

| 時 | 指導内容 |
|-----------|--------------------|
| 1 | 社会の発展とIoT技術について学ぼう |
| 2 (本時) | IoT技術とその利用について考えよう |

3. 本時

(1) 目標

Society5.0におけるIoT技術の仕組みと，実社会での活用例について学び，持続可能な社会について考える。

(2) 展開 (2/2)

| 時配 | 指導内容 ● 学習活動 ○ | 教師の支援 ■ 評価 ◇ | 備考 |
|-----|------------------------------------|--------------------------------------|----|
| 見出す | ● 社会の変遷 (Society5.0) の復習を行う。 | ■ 前時のスライドや動画の要点をおさえつつ，生活の発展について復習する。 | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| 1 0 分 | ○ 社会的・歴史的背景から人々の生活の発展について学ぶ。 | ◇ 現在の生活に至るまでの流れを知り，プリントに考えや意見を記入することができる。 | |
| 自 分 で 取 り 組 む 1 0 分 | <p>● 現代社会 (Society5.0) について考える。</p> <p>○ 現代社会を象徴する発明・機器を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AI ・ ドローン ・ スマートスピーカー etc… <p>→ インターネットや仮想空間を利用した ものが多い。</p> <p>● IoT 技術を解説。</p> <p>○ インターネットに接続した機器がどのような仕組みで動き，どのように活用されているのかを知る。</p> | <p>■ 意見が出ず，停滞しないよう，身近な物や知っている物から挙げていくよう促す。</p> <p>■ 個人での活動が厳しい場合は作業を区切り，班活動に切り替える。</p> | |
| 広 げ 深 め る 2 5 分 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 社会で用いられている Iot 技術について知ろう </div> | | |
| | <p>● 実社会における IoT 技術の利用について知る。</p> <p>○ 社会で用いられている IoT 技術の実際の活用事例を紹介している HP を観て理解を深める。</p> <p><参考 HP> KDDI IoT ポータル (iot.kddi.com)</p> | <p>■ 身近なところで使われている Iot 機器について考えさせる。</p> <p>その際，生徒から出た意見や発表を活用する。</p> | |

| | | | |
|--|--|---|--|
| | <p>○ IoT×() というテーマをもとに班 内で調べ、ミニプレゼン テーションを行う。</p> <p>○ 班内で調べた内容を共 有する。</p> | <p>■ IoT ポータルサイト以外の 活用・利用例でも構わないの のでできるだけ班内で被らな いようにテーマを決めるよ う指示する。</p> <p>◇ IoT 技術の利用についてま とめ、学んだことを記入し、 発言発表することができる。</p> <p>■ 時間が無ければどのよう な利用があったかだけでも 確認させる。</p> | |
| <p>ま と め あ げ る 5 分</p> | <p>● IoT 技術の持つ可能性 を考える。</p> <p>○ 考えてみよう IoT×() 将来どのような利用がで きそうか？ (感想含む)</p> | <p>■ IoT×農業の活用事例を考 えさせる。</p> <p>農業の抱える問題 … 人手不足 収量の不安定さ 作業効率の悪さ 生産～販売までの管理 フードロス問題</p> <p>IoT 技術を活用することでこ うした問題を改善すること ができる。 → 持続可能な社会 SDGs にもつながる。</p> <p>◇ 感想を含め学んだ内容を どう考え、これからの将来 に生かせるかを記入するこ とができる。</p> | |

4. 使用教材・資料

- ※・Society5.0 未来社会（動画） 内閣府提供
- ※・IoT活用事例（KDDIホームページ）
- ・プリント（IoT技術について調べ，記入する用紙）

※事前に各企業，事業所に利用許諾申請済

5. 成果と課題

(1) 成果

実社会での活用例に触れることで，IoT技術が持続可能な社会に役立っていることを実例を交えて伝えることができた。

また，農業のように一見関係なさそうな職業にIoT技術が活用されていることを知り，将来より良い社会を目指そうとする姿勢を持つことができたと感じた。

(2) 課題

聞き慣れない言葉や概念，まだ見ぬイメージを伝えきることが難しく，時間の制約もあり，生徒全員に理解・考察させるには至らなかったように感じた。

「持続可能な社会」と「消費者教育」の関係は深く，今後教科の枠を越えて伝えていくべき分野であると感じたので，引き続き改善・修正を重ねて指導にあたりたい。